

S H I M I N P H O T O

市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島



NO. 88

平成14年4月1日発行



噴水彫刻
【水車】
～薬師一丁目～

CONTENTS

【特集】リサイクル	3
クローズアップ	12
角園 美津代さん	
ハロー鹿見島	14
チエスンジュさん	
カメラトピックス	16
学校探訪	18
和田中学校	
私の好きな場所	20
大高 文雄さん	
ふるさと再発見	22
県立博物館考古資料館	
あなたのフォトサロン	24
中央写友会	
よかタイム	26
田口 惇子さん	
街角ウオッチング	27
滑川市場がいわい	
道具ものがたり	28
真空管ラジオ	
館のたからもの	29
ふるさと考古歴史館	
わが町上空今むかし	30
ナポリ通り	

★表紙写真説明

桜咲いたら一年生。期待に胸をふくらませる。真新しいランドセルを背負って通学する子どもたち。



【特集】 リサイクル

市民生活に定着してきたリサイクル。
鹿児島市では、この4月から本格的なリサイクル
推進の拠点となるリサイクルプラザを稼働させた。
市民のリサイクルに対する取り組みなどもカメラ
で追ってみた。

Recycle

- ・缶、びん、ペットボトルを処理する本館(左)
- ・紙パック処理をする1号棟(中央)
- ・プラスチック容器処理をする2号棟(右)



本館1階のペットボトル圧縮梱包機。3階で選別されたペットボトルを成形品にするもので2台備えられている



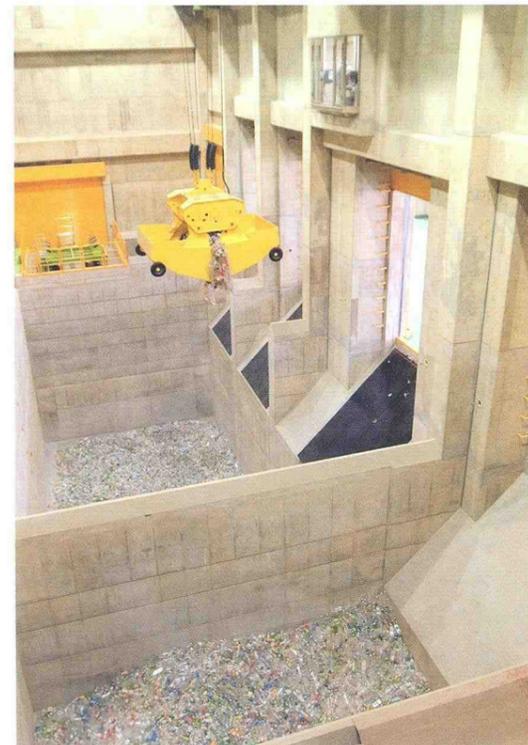
本館の2階にある中央制御室。ごみクレーンの操作をはじめ館内作業の心臓部に当たる



左からペットボトル、アルミ缶、スチール缶の成形品。重さはそれぞれ20kg、80kg、200kg

車両の誘導や、異物の除去、安全を確認する監視員などを配置し、中央制御室のモニターで、作業工程を監視する。

リサイクルできる成形品を作り出し、それぞれ再生業者へ引き取られていく。それでも、やはりごみは残る。再生できないごみはトラックに積みまれ、横井埋立処分場へ運ばれていく。



貯留ピットのペットボトルなどは、ごみクレーンで受入ホッパへ投入され、コンベアで3階の選別室へ送られる

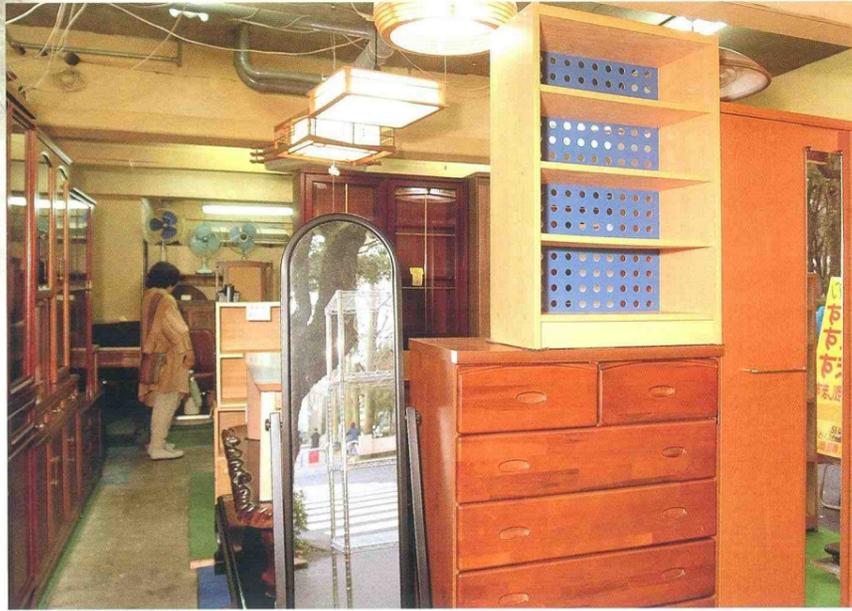


本館3階の自動選別機で、無色・茶色・その他の色に分別されたびんは、1階のカレットヤードに貯留する

市の北西部、犬迫町にリサイクルプラザが完成した。

ペットボトルやプラスチック容器類の分別収集が始まり、資源化施設として稼働している。ごみを再生し、資源とするための重要な拠点となる。同時に、ごみを減らし、埋立処分場の使用期間を延ばすことができる。

リサイクル推進の拠点 リサイクルプラザ



店名は「R-STOCKMAN」。Rの文字は、リサイクル、リメイク、リペアを意味している

リサイクルショップは、再生品が安く手に入る場所だ。不用品を買い受け、修理や塗装を施し店頭に並べる。それを別の誰かが買い求める。使い回しできるものは捨てない。古いものでも大事に使えば長持ちする。「古いものほどリサイクルしやすいですよ」

何気ない店長の一言からは、物に対する愛情が伝わってくるようだ。

古い家具の表面を電動カンナで削る。一削りごとに、新しさがよみがえる



杉本さんの畑。ハクサイやダイコンなど、料理に必要な野菜はほとんど自給自足

伊敷町に住む杉本さんは、調理の際の生ゴミを、堆肥として自宅近くの畑にまいている。ごみは土に返り、またみずみずしい野菜が育つ。そして、その野菜を食べる。

また、地域では、PTAなどが主体となつてリサイクル回収活動を定期的に行ったり、町内会では、プラスチック容器類の分別収集説明会を開いてきた。市内各所でリサイクルへの意識が高まってきている。

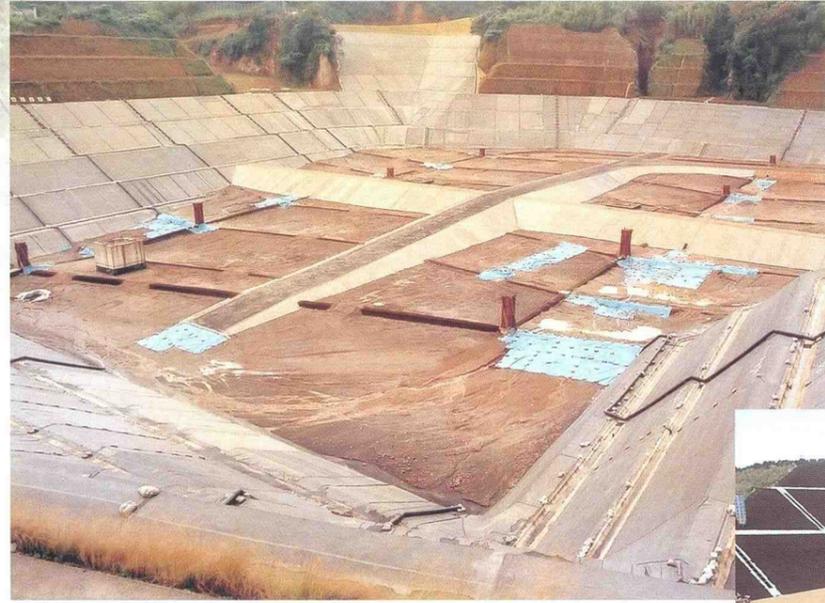


坂元町町内会のプラスチック容器類分別収集説明会。会場となった幼稚園には、雨の中30人以上が集まった



大龍小学校PTA主催のリサイクル回収活動。年に3回開かれ、大人も子どもも協力して行う

いつでも・どこでも・誰でも
生活の中にリサイクルがある



横井埋立処分場(1工区)。
埋め立て容積2,220,000m³は小学校
の25mプール約5,800杯分。平成13年
4月末で満杯となった



現在の横井埋立処分場(1工区)。
茶色の法面には種子が吹きつけ
られ、自然の状態に近づける



資源化センター。ペットボトル処理ができる
工事を経て、8月から3号棟として再稼働の予定



谷山地区で3月から始まったペットボトルや
プラスチック容器類の分別収集。初日は7
業者が2台ずつ計14台が回収にあたった

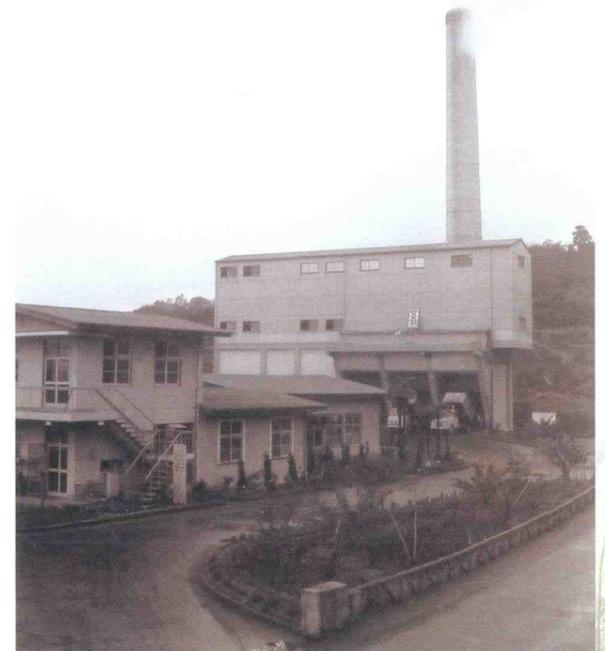


手車9台、トラック3台でゴミ収集をしていた時代。写真は昭和34年



昭和39年の収集のようす。収集車の形状は現在もほとん
ど変わっていない

昭和24年9月。一般家庭のごみ収
集が開始された。昭和38年からはごみ
容器(ポリバケツ)による収集も始まる。
大規模な埋め立て用地として、横井
埋立処分場が開設されたのは昭和61
年のことだった。
平成10年1月からは、缶・びんの分別
収集が始まり、資源化センターが稼働。
人々が生活する限り、ごみがなくな
ることはないが、資源循環型社会へ向
けて、捨てる時代から活用する時代へ
移り変わっていった。



田上町にあった広木清掃工場(昭和38年)。平成6年、南部清掃
工場の操業に伴い廃止。跡地は公園として利用されている

捨
て
て
い
た
時
代
か
ら
活
用
す
る
時
代
へ



市長に聞く

リサイクル

21世紀は環境の時代といわれています。リサイクルプラザは、ごみのリサイクル施設としての役割はもちろんです。増え続けるごみをいかに減らせるかという点でも重要な施設です。分別収集は、この施設を運用して効果をあげるためには、どうしてもやらなければならないと思います。皆さんのご理解とご協力で、ぜひ成功させたいと思っています。

親が子に大人が子どもに物の大切さを教える

豊かな時代に育った今の子どもたちに物の大事さやありがたさを理解させるには、まず親が自分たちの育った子どもを率直に教えてあげることが大切でしょう。ね。そして、地域の中でも、大人が率先してリサイクル活動をすれば、子どもたちはその姿



「混ぜればゴミ、分ければ資源」ということばがあります。地球環境のためみんなの力で、リサイクルをすすめたいものです。

一回役に立ったものを、ゴミやくずせず再生して、もう一回役に立つてもらうというのがリサイクルです。

リサイクルということは生活の中から生まれてくるものだと思います。地球規模の環境問題よりもまず、毎日の生活の中の一つ一つの行動の中からリサイクルが生まれてくるのではないのでしょうか。そして、このことよって環境問題がより身近なものとなるでしょうね。

物に対する感謝の気持ち がリサイクルの心

リサイクルというものは生活の中から見ると、一緒に行動するようになると思います。

父が山下町で傘の修理を始めて50年あまり。「傘が生き返ってよかった」と喜ぶお客様の笑顔が、父の生きがいでした。最近、体調を崩した父に変わって、私が傘の修理を続けることになりました。あるお客様は「母が使っていたもので、40年ほど経っていますが、修理したら使えそうなの



犬追町 上入佐 千恵子さん
物を大事にすることは
自分を大事にすること



傘の修理をする上入佐さん。修理に来るお客さんは断えない

で。母の思い出は捨てられませんが、一本の傘でも、思い入れや、思い出があれば何年でも大事に使い続けるお客様たち。物を大事にすることは、物への自分の思いを大事にすることなんです。

捨てられない思い 捨てない工夫



下伊敷二丁目 倉内 幸子さん
捨てる前に生かす工夫が必要です



倉内さんの作品。校区の文化祭や、市役所の市民ギャラリーなどにも展示するほど立派なものだ

タマゴサイイクは、母に教えてもらったのがきっかけで8年ほど前から始めました。タマゴの殻を乾かし、下絵を書いた台紙に接着剤で貼り付けます。その後、絵の具で色付けして、乾いたらニスでぬって完成です。慣れれば2〜3日で作れます。また、ペットボトルやフィルムのケース、ラップやトイレットペーパーの芯なども、工夫次第で子ども向けの立派なおもちゃになります。

物を生かして再生するアイデアを考えるのは楽しいですよ。捨てる前に「これ、何かに使えないかなあ」と思うことから始めてみるのがいいかな。

身構えずに

ただ知って、

ふれあつてほしい



角園 美津代さん

略歴 名瀬市生まれ
社会福祉法人鹿児島市手をつなぐ育成会
福祉作業所「あすなる」所長



サンエールがごしま内にある喫茶「あすなるマジック」。ガラス張りの店内には晴れの日も雨の日も穏やかな光が降り注ぐ。知的障害をもつ若者に働く場を—その思いで開かれたこの店の店長、角園美津代さん。

ワンターへと戻っていった。ここでは、常勤5人と鹿児島城西高校共生コースの生徒たちが実習として働いている。厳しい雇用情勢。知的障害者にはもっと深刻だ。だからこそ、お客さんに不快な思いをさせないように、接客マナーはきちんと教える。「知的障害者だから大目に見てください」とは言いたくないんです。

に生まれ、のびのびと青春を謳歌しているという。障害を否定的に考えず、「障害をもった直樹が直樹だから」と18年間成長を見守ってきた角園さんだが、心配なこともあった。小学校の運動会。「皆と一緒に集団生活になんてほしい」という思いと、「直樹のせいで遅くなってしまうのでは」といういたたまれない気持ちで見つめていたリレー。

より知ってもらい、

ふれあう場を

お盆を持った青年がゆつくりと歩いてくる。コーヒートのクリームと砂糖を静かにテーブルに置くと、彼はそつと力

「知的障害者のことを知らないから、どう接したらいいのか分からない。でもそれは知らない相手が悪いわけではなくて、こちらも知ってもらう努力をしなければならぬと思うんです。」

だが、子どもたちは、「直くんには、リレーゾーンぎりぎりでバトンを渡して、次の子はゾーンの手前でバトンを受け取るようにしよう」とチーム全体でカバーする方法を考えていた。それは日常的に接していて、直樹さんをよく知っていたからできたこと。「子どもたちは本当に自然に直樹を受け入れて、そういう工夫を自分たちでしているんです。」

の気持ちは尽きない。「身構えなくてもいいんですよ。角園さんの言葉にふつと心が軽くなる。ただ自然にふれあえばいい。そう素直に思えたとき、角園さんがこの店のもつ温かく、優しい力を感じた。



和気あいあいとした雰囲気の中でも調理、盛りつけなどお客さんを満足させる丁寧な努力が続く

障害をもった息子が

ありのままの息子

角園さんには知的障害者の息子、直樹さんがいる。先生や周りの人たちが

共に生きるために

今年一月、「あすなるマジック」の開店一周年記念パーティーには80人もの人たちが集まった。「思った以上に多くの人たちが支えてくれました」。感謝



●人気のシフォンケーキ。メニューのレシピはすべてプロの直伝



国境に近いコソン郡。
韓国で最も美しいといわれるソラク山を望む海辺のまちで生まれ育った

「韓国人はキムチなくしては生きられない」といのは本当らしい。キムチが少なくなるとどんなに忙しくてもキムチ作りを優先させるのだという。チェさんのキムチはおばあちゃんゆずり。キムチは韓国のおふくろの味であり元気の素のようだ。

愛する日本

チェさんが鹿児島に来たのは、鹿児島出身の夫・博さんとの出会いがあったからだ。出会うまでは「正直に言う」と日本に対してマイナスイメージを持っていたという。それでも結婚したのは、「主人が韓国を愛し、理解してくれていた」から。「だから私も日本を愛したいんです。実際、最初はイメージが邪魔してかなり気を使っていたけれど、鹿児島に住んで近所やPTAでたくさんの人と親しくなると、日本がどんな好きになりました」。住んで7年。彼女にとって、日本＝鹿児島だといえる。



私の中で鹿児島と韓国が混ざり合った

「近くて遠い国」から「近い国」に

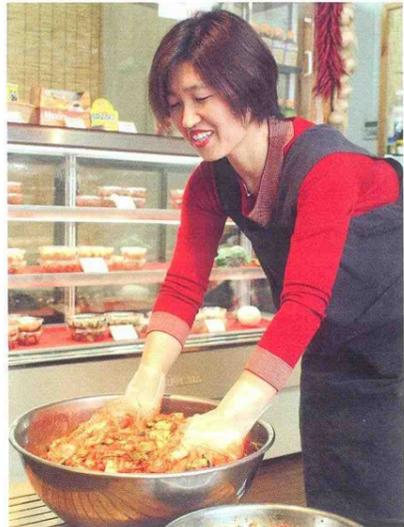
日本に来た当初は韓国に関心がない人の多さにショックを受けた。韓国は距離は近いけれど遠い国なんだと思った。しかし少し変化が。韓国でも変わってきました。昔は日本と試合をする

とき競争心がすごく強かったけれど、(サッカーの)ワールドカップと一緒に開催することになって、日本を応援する声が出てきました。協調ムードが高まっていますね。

お互いを理解しようとする気持ちが大変だというチェさん。「コチジャン(韓国味噌)と日本の味噌を混ぜて焼肉のタレを作ったら、すごくおいしくできました。日本と韓国の間も、それぞれの良さを知って混ぜる(交流する)と素晴らしいものになると思います」。

広がる夢

昨年、宇宿三丁目に韓国料理と食材の店をオープンした。以前頼まれて教えたキムチ教室が好評だったときに生まれた夢を実現させたのだ。また、子育てとお店の傍ら、高校や公民



韓国で家庭科の先生をしていたチェさん。おばあちゃんの味に自分で工夫も加えた

館で韓国語を教えている。「鹿児島の人にもっと韓国が身近になればいいな」と思います。これからさらにいろいろな事を紹介していきたいと博さんと夢を広げる。

3人の子どもたちは鹿児島育ち。毎年韓国へ里帰りしているものの「上の二人は辛くてまだキムチが食べられない(笑)」のだそう。子どもたちには「私」が実際に接することで初めてわかったことがたくさんあるから、世界に出ていろんなことなふれてほしいと願っている。「個人と個人でふれあっていければ、世界は一つになれると思うんですよ。単純かもしれないけれど」との言葉は、チェさんのひろく、あたたかな人柄を表していた。

チェ・スンジュさん
【韓国出身】

HELLO
KAGOSHIMA
ハロ-鹿児島

チェさんの一口韓国語

어서 오세요	ようこそ
감사합니다	ありがとう
배추김치 가 맛있어요	白菜キムチがおいしいね!



2月1日 千葉ロッテマリーンズ歓迎式
2月10日 ジュビロ磐田歓迎式

鹿児島に春を告げるキャンペーン。たくさんの市民が詰めかけ、選手たちを歓迎しました



ウメ(都市農業センター)



レンゲソウ(天迫町)



2月20日 新年度予算案発表

平成14年度の予算案についての記者会見を行いました。一般会計の予算額は1751億5900万円で、第四次総合計画をふまえた予算となりました



3月1日 低公害車デザイン発表会

自然を連想させる木の葉をモチーフとし、コアラをロゴマークに取り入れたデザインの低公害車がお目見えしました



1月9日 教育用テレビ会議
ネットワークシステム稼働式
情報教育を積極的に推進するためのシステムが稼働。西田小学校の児童が市長に質問する場面もありました



1月10日 市立美術館入館300万人達成記念セレモニー

昭和60年10月29日に新装開館した現在の市立美術館。300万人目は、吉田町から来館した前原聡美さんと長男の敏樹くん

1月15日 超低床電車出発式
愛称は「ゴートラム」。ノンステップで誰でも無理なく乗車できる路面電車として3両導入されました



1月6日 消防出初式

今年から、新栄町の消防総合訓練研修センターに会場が変更。消防職員と消防団員約950人と37台の車両が参加して行われました



1月15日 コアラ出発式

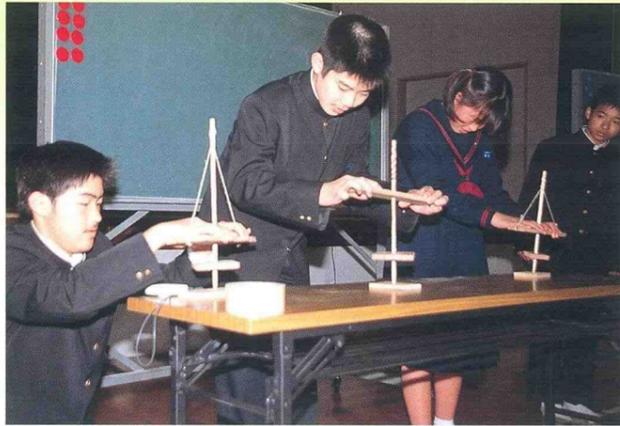
平川動物公園のコアラ2頭(ミライ・ケイ)が、アメリカのリバーバックス動植物園に贈られました



ツクシ(吉野町)

体育大会の名物行事「若人の叫び」。
1、2年生男子が上半身裸で「エッサッサ」

総合的学習の時間



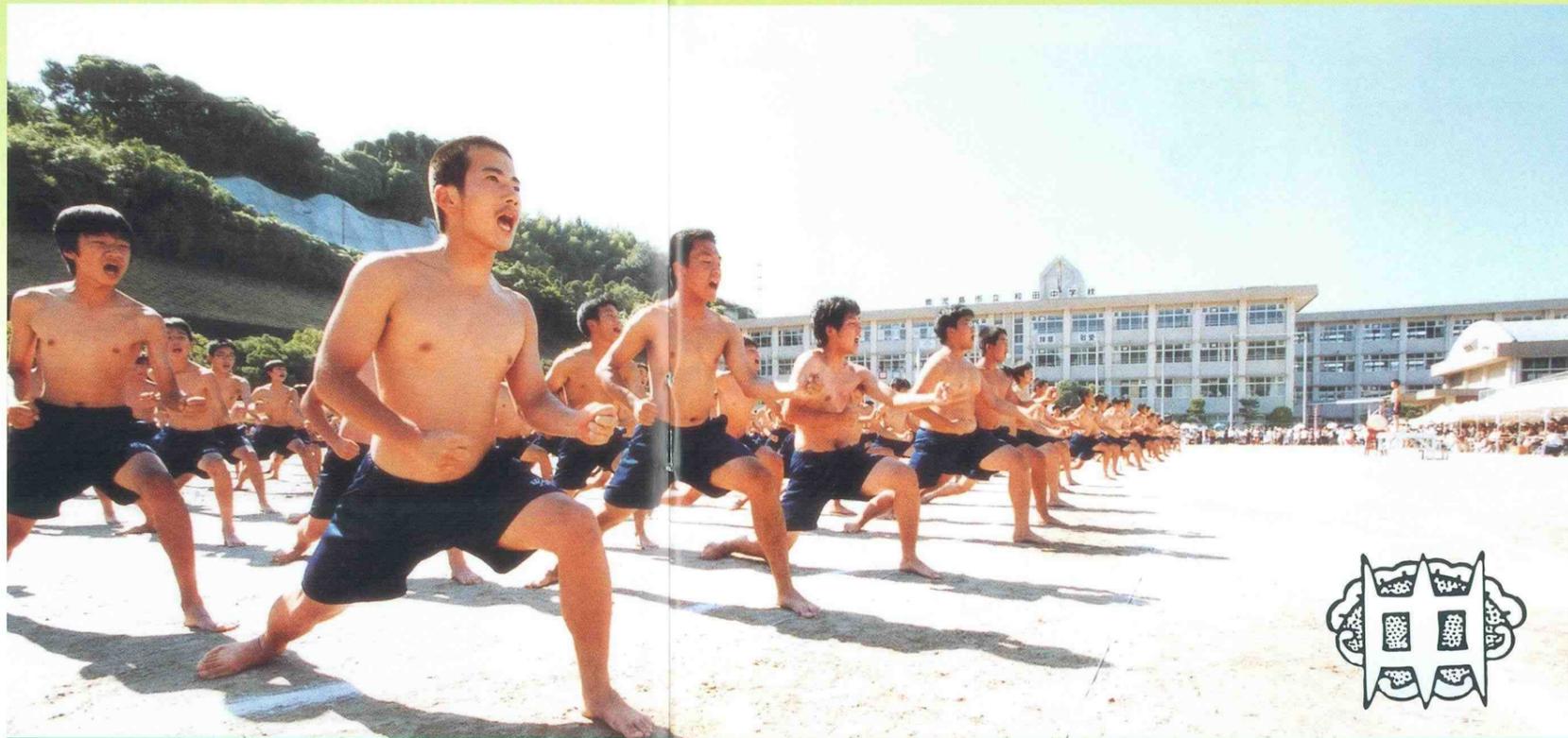
1年生のテーマは「郷土を知ろう」。
体育館での発表会では「歴史コース」の火起こし実演も行われた



2年生は、「職場体験学習」。
体験先は、さまざまな職種、事業所にわたった



3年生のテーマは「福祉ボランティア」。
福祉施設の訪問など、学校外での体験や交流を行った



創立 昭和22年5月2日 生徒数 1,057人(平成14年3月1日現在)



学校のすぐ上を、JR指宿・枕崎線の
ディーゼルカーが走る



朝のPTAあいさつ運動。
市内で2番目に多い生徒数を抱える。通学距離は、最大約4km



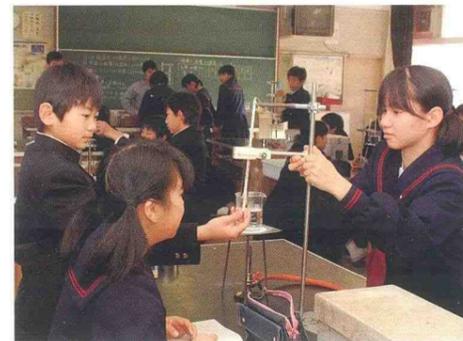
バレーボールや卓球など部活もさかん



和田中学校



「場を清(浄)め 礼を正し 時を守る」の碑



実験は楽しいな



よく学び、よく食べ

錦江湾に漂いながら、 魚の気持ちになる



錦江湾

墓を建てたいと密かに思っている場所がある。錦江湾に浮かぶ沖小島だ。できたらの話だけだね。ここからの桜島が本当に好きなんだよ。死んでからもこの眺めを楽しめたら幸せだろうと思う。

桜島にもいろんな表情があるけど、僕はダイナミックな桜島が好きだな。燃えているイメージがあるからね。

大都會の喧騒にへきえきし、鹿児島に戻ってきたのが30年前。「こんなに豊かな海がすぐそばにあるんだから遊ばない手はない」ということで、釣りを始めた。

釣り糸をたれながら、海の中を想像してみる。魚も学習するから、仕掛けのえさに簡単には食いつかない。もしかしたら、えさを前に魚同士で会議をしているかもしれない。そんなことを考えると、釣りざおを絵筆に持ちかえたくなる。エッセー画集『魚眼恋図』は

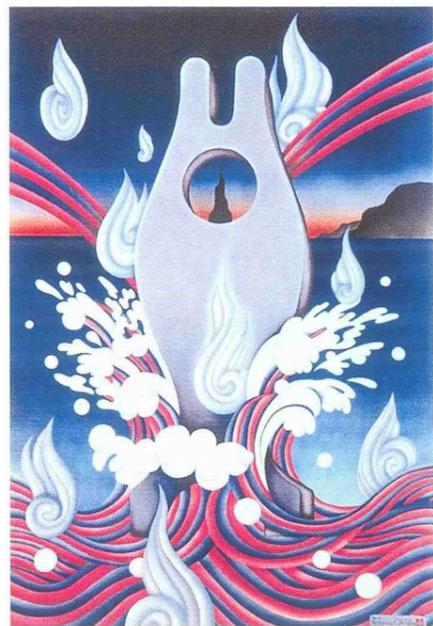
魚から見た人間社会の風刺なんだ。

海に出ると、ビニール袋や空き缶、釣り糸などがよく落ちていく。マナーが悪いね。人間が捨てたもので、そこに住む生き物が傷ついたり死んでしまうのはよくある話だ。利便優先だけで自然を壊すのは、ご慢だよ。

必要な開発はしないとけない。例えば、人間が髪の毛をちゃんと整えるように、そのままさばさばしているわけにはいかない。でも無駄はいけない。海から市街地を見ると、コンクリート一色で寂しい。海岸線は陸と海の境界線なんだから、もつと大事にしないとけないよね。

魚の生き方やフォルムは、とても自然だと思ふ。水の流れを利用する動きと形。人間の女性は、より魚に近い。

女性の心の中にも男性的な部分があるように、僕の中にも女性がいる。男性は、虚勢をはったり、争いをしたり、流れに逆らったりする。女性は自分の感情に素直。とても自然に近いと感じる。



「魚魂碑」

私の好きな場所

My favorite Place



グラフィックデザイナー 大嵩 文雄さん

広告会社でデザイナー、ディレクターとして34年勤務した後、独立。現在、かごしまデザイン協議会副会長。今春、エッセー画集『魚眼恋図』を出版予定。

さざ波の音は胎内の羊水の音に似ている。地球の7割は水、人間の7割も水。だから、水を見るとほっとする。水は人間の原点なんだ。

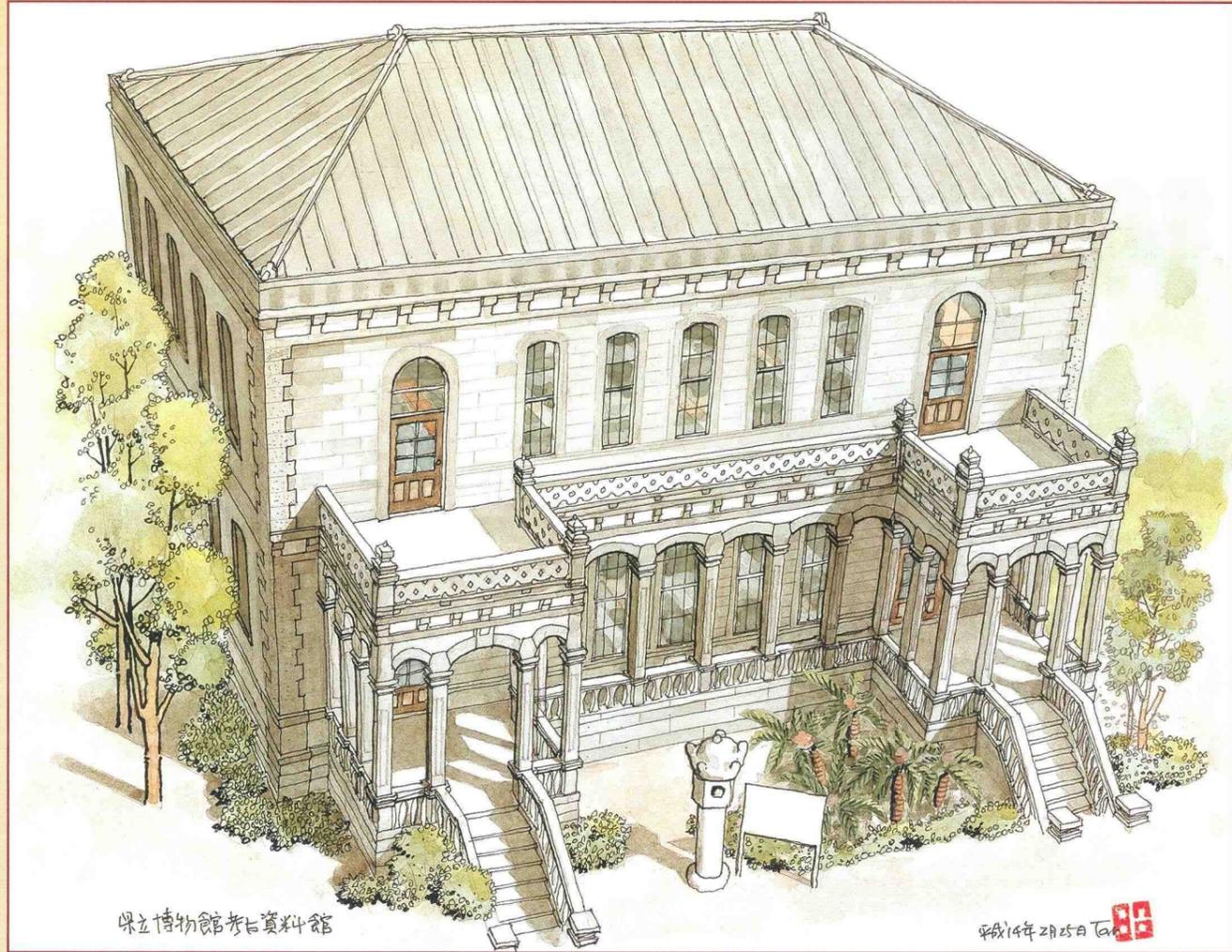
そんなことを考えながら、海の上でボートとしている。「時よ、このまま止まってくれ」と願う至福の時間だ。

錦江湾は我が家の池。僕の愛してやまない場所だ。

ナポリの船乗りをほうふつとさせるいでたちで船を操る。「錦江湾は心の休憩所」といいながらも、畏敬の念をもって海と接している。

「今までいろんな人の力を借りてやってきた。人生の折り返し地点を過ぎて、今度は人のために何かをしたいと思っている」。年輪を重ね、大嵩さんの人生はますます輝いていく。

鹿児島県の近代化には、石材が重要な役割を果たした



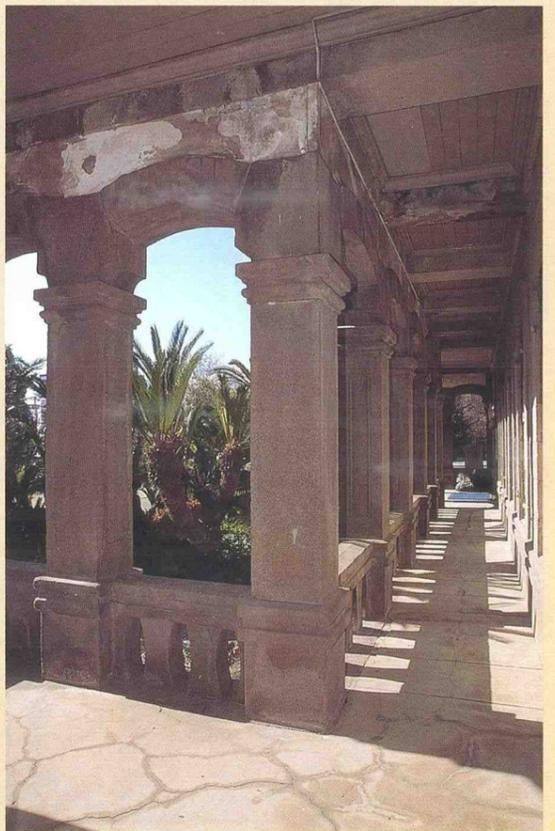
県立博物館考古資料館

昭和14年2月25日 田

登録文化財

県立博物館
考古資料館

文／画 第二工業大学教授
田良島 昭



一階の右のエントランスから左のエントランスをのぞむ

我が国で、コンクリートという材料が建築に使われたのはそれほど古いことではない。明治の初期、不燃建築を建てようと思えばまず石造か煉瓦造だった。コンクリートの建築を建てようとするれば、明治四十年ごろまで待たなければならない。

当時はこのほか、耐火性、耐久性が建築に要求された時代でもある。だから、不燃化を図ろうとした当時の建築物は、必然的に石造か煉瓦造のいずれかを選択しなくてはならなかった。

いずれも、建造技術としては組積造なのだが、同じ組積造といっても、両者には建築資材として一次製品と二

次製品という大きな違いがある。つまり、煉瓦というのは材料を確保するのに、工場の建設から考えなければならぬという問題があったが、それにひきかえ、石材というのは、切りだしたそのものが架構材料として使えるという簡便さが身上であった。

しかも、鹿児島は石材の質はともかくも、土地柄としては極めて石材に恵まれていた。ちなみに、戦前はどの町村でも石切り場というものを持っていたし、地域から発生する需要程度はほとんどどこで賄っていたのである。

いきおい、鹿児島の近代化には、その過渡期で石材が重要な役割を果たすことになる。

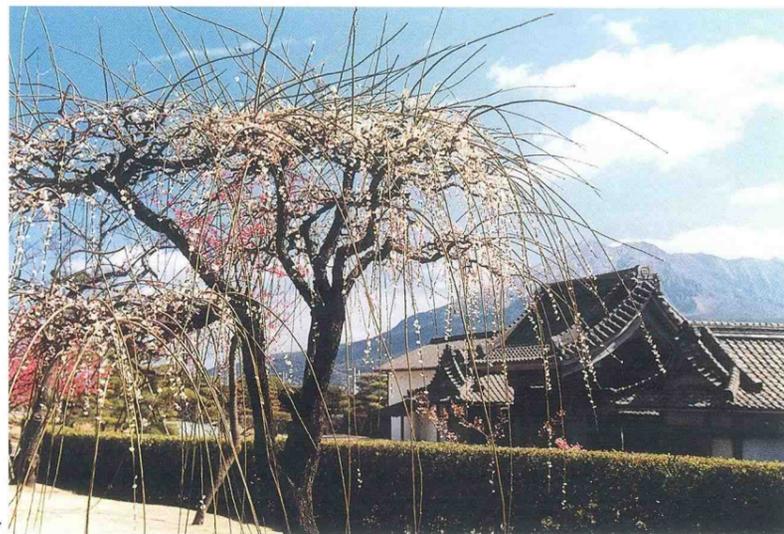
県立博物館の別館は、明治十六年（一八八三）鹿児島県の産業を振興する目的で建設されるのだが、そのころ鹿児島が主催して開かれた第二回九州沖縄八県連合共進会の物産展示場としてである。これは、今でも博覧会の時パビリオンを常設施設として建設するの軌を一にする。

以来、この建物は明治二十二年の鹿児島市の発足とともに市役所の仮庁舎として利用したのを手始めに、鹿児島の商工奨励館、商品陳列所、火山博物館などに用途が変わり、一時期は軍部に接収されていたこともあったが、終始、鹿児島の産業を支えての百二十年だった。

もともと、地震に弱いという決定的な欠陥をもっていた石造は、ついに日本では架構の主役には成り得なかったのだが、これはこれなりに、確実に一つの時代を画したことは間違いない。

三五郎の業績を挙げるまでもなく、鹿児島には石の架構物が多く残っているが、独特の構築物として次のものをあげ、一見をお勧めしたい。

- 石造住宅（倉家）群
始良町松原（一部現存）
- 石置屋根倉庫
蒲生町上久徳（現存）
- 新照寺本堂
始良町住吉（現存）
- 最大乗院山門
鹿児島市長田町（現存）
- 日露戦役凱旋門
始良町山田（現存）



「仙巖園の春」 下栗 信男さん



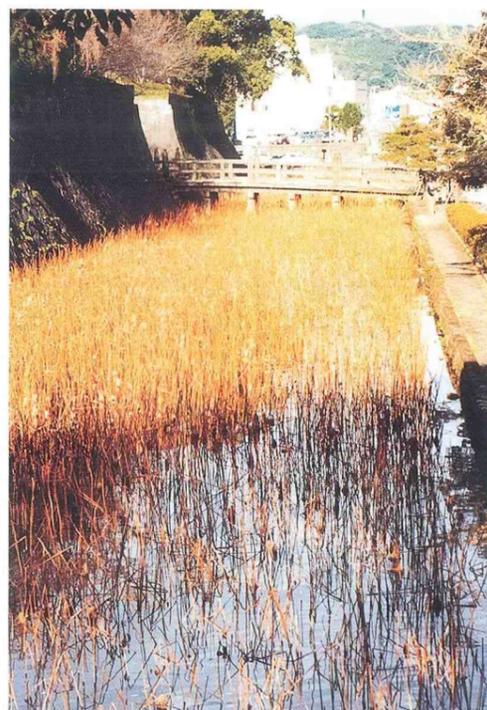
「マナ鶴一家の旅立」 安田 郁代さん

「鹿児島島の春」

中央写友会



「春の野良」 山田 真理子さん



「鶴丸城春日和」 白井 真由美さん



「春を行くローカル線」 高山 雅子さん



YOKA TIME
よかタイム

二胡(胡弓)

田口 惇子さん

二胡(胡弓)は中国の民族楽器。悠然としたなかに哀愁を帯びた音色に、どこか懐かしく、切ない思いをかき立てられます。田口さんの真剣な演奏にしばし時の流れを忘れてしまいました。

よかタイム
5つの質問

Q1 始めたきっかけは？

朗読テープ「スーホの白い馬」で、バツクに流れていた音色にひかれ、その楽器を探しているときに、二胡と出会いました。

Q2 二胡(胡弓)の魅力は？

なんと言ってもこの音色です。楽器が手軽で持ちやすいのも気に入っています。

Q3 演奏するとき、気を付けていることは？

腕振りですね。弦と弓を垂直に保ったまま、穏やかな水面を滑る舟の

ように弓を引く。これがなかなか難しいんですよ。

Q4 今後の目標は？

「光明行」という行進曲風の明るく楽しい曲があるのですが、それを弾けるようになりたいですね。

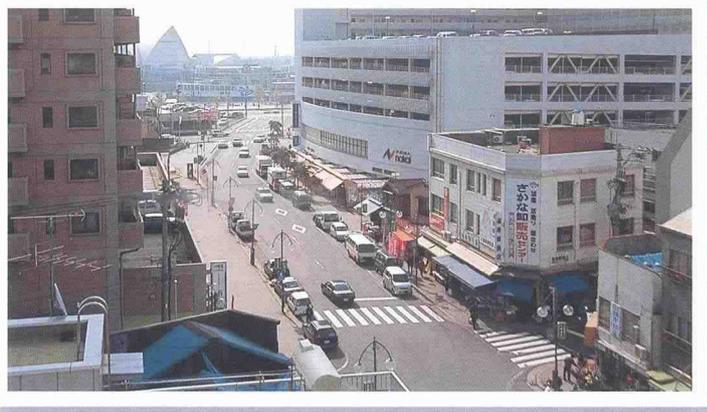
Q5 これからどんな所で演奏してみたいですか？

人にお世話になったとき、ちよつと一曲お礼で弾く、施設などでボランティアとして演奏する、天文館で「流す」のもいいかなと思っています。



街角

ウォッチング
～滑川市場かいわい～



真空管ラジオ



当時の新聞のラジオ欄
(南日本新聞 昭和31年7月21日)

鹿児島初のラジオ放送は昭和10年のこと。NHK鹿児島放送局が開局し、第1回の放送は、鹿児島市公会堂（現在の中央公民館）に聴取者約2000人を招待して、式典や長唄などを中継したそうです。

真空管ラジオは、それまでの鉱石ラジオに代わるものとして、昭和初期から昭和40年ごろまで放送・通信の機器として使われてきました。

写真の『テレビ型ラジオ』は、昭和31年に発売されたものです。価格は当時1万900円。昭和28年には国産初の白黒テレビが発売され、大都市では放送も始まりましたが、テレビは非常に高価なもので一般の人には手が届きませんでした。

「形だけでもテレビを味わいたいと思っただけで買ったのではないでしょか」と持ち主の田中正義さん（千年一丁目）。
ニユースや歌謡曲、ナイター中継を楽しんだそうです。

「今でも、テレビのナイター中継が途中で終わったときには、このラジオを利用して聞いていますよ」。

愛用の真空管ラジオは、46年たった今でも、深みのある優しい音を届けてくれます。

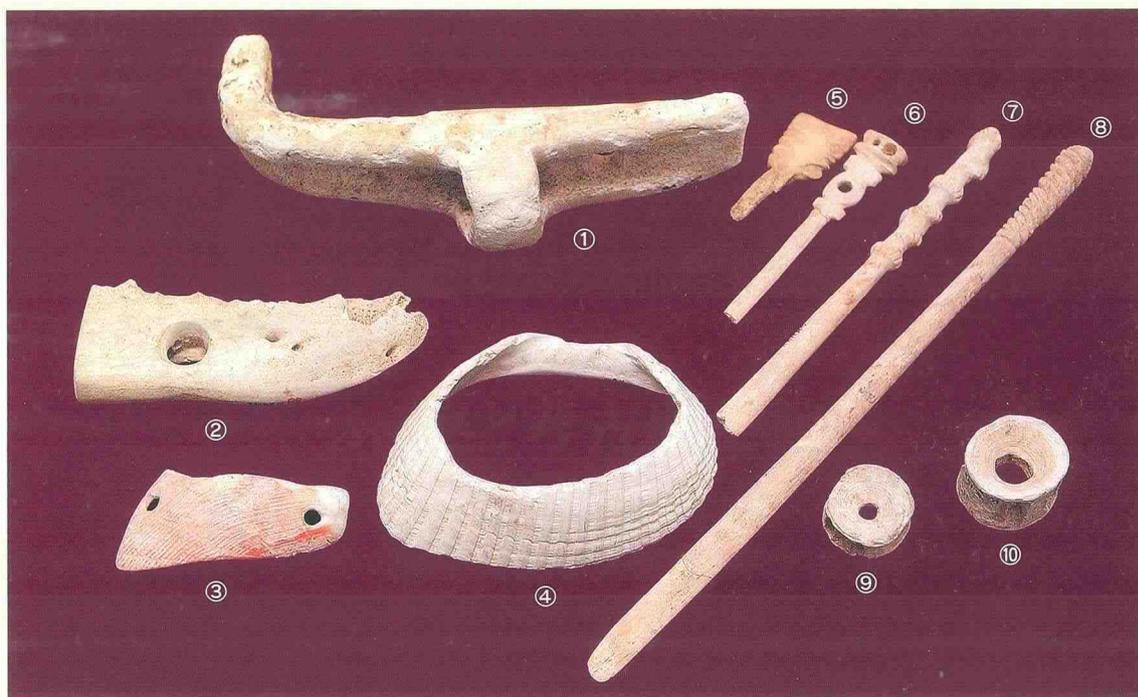
その後、ラジオの心臓部は、トランジスタ、IC、LSIなどの半導体に移りましたが、真空管はその独特の音質から、今でも愛好家たちの間で根強い人気を保っています。



テレビ型ラジオ

ふるさと考古歴史館

「骨角器」 縄文人のアクセサリー



鹿児島市内には、約140もの古代遺跡がありますが、その中でも特に出土品が多いのが、下福元町にある約3千5百年前の縄文時代の遺跡「草野貝塚」です。

草野貝塚からは土器や石器のほか、シカやイノシシの骨や牙、角などで作られた「骨角器」も発見されました。

骨角器は酸性の火山灰土壌では保存されにくいので、鹿児島では珍しい出土品です。

これらの骨角器の中には、釣り針や編み針のような生活に欠かせない道具もありましたが、髪飾りや穴を開け紐を通して作られた首飾りや腰飾りなどのアクセサリーもかなり含まれています。

昔の人もおしゃれには気をつけていたんですね。

(ふるさと考古歴史館 古澤 生)

- ①シカの骨で作られた腰飾り
- ②イノシシのあごの骨で作られた装飾品
- ③貝で作られた装飾品
- ④貝で作られたプレスレット
- ⑤～⑧シカの骨で作られた髪飾り
- ⑨～⑩サメの骨で作られた装飾品



わが町上空 今むかし



昭和36年

ナポリ通り

新幹線の工事もたけなわの西鹿児島駅から東へまっすくのびるナポリ通り。昭和35年、姉妹都市盟約を記念して命名されました。鹿児島市は戦災復興事業で、広い街路を縦横に整備しました。このナポリ通りも36mの幅員を誇っています。春になると、クスの青葉とヒノデキリシマの深紅の鮮やかなコントラストで、通りは一年で最も華やかな時期を迎えます。

40年たち、まちの表情は大きく変わりました。西鹿児島駅前のロータリーは撤去され、駅舎も建て替えられました。甲突川にかかる橋は上流から高見橋、南洲橋、高麗橋。南洲橋のたもと、西郷隆盛誕生地の隣接地には維新ふるさと館が建設されました。

現在

市民フォト

鹿児島

NO.88

編集発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11の1

電話 216・1133

印刷・レイアウト／渚上印刷株式会社

